

2023 年 3 月 28 日

各位

一般社団法人グランフロント大阪TMO

## グランフロント大阪「ART SCRAMBLE」第5弾 展示スタート ～砂を用いたオブジェ作品や、初となるうめきた広場大階段への作品を展示～

グランフロント大阪から全国、そして世界へ羽ばたくアーティストをサポートするアートプロジェクト「ART SCRAMBLE」（アーツクランブル）。プロジェクト・ディレクターに椿昇を迎えて2021年3月にスタートし、気鋭のアーティストにより生み出された作品をこれまで計10点（全4回）グランフロント大阪内に展示し、訪れる人々に驚きと発見をお届けしてきました。

この度、第5弾として新たな作品を2点、本日より展示開始いたします。南館せせらぎテラスには、アーティスト：R E M A本人のセルフイメージを使用したオブジェ作品を展示。立体造形物を制作するFES株式会社協力のもと、CGモデリングデータを元に、砂型3Dプリンターの応用により制作されました。

また、プロジェクト初となるうめきた広場大階段への作品を展示。本作品は、アーティスト：MASAGONと、3月18日（土）に実施したワークショップに参加した38名の子どもたちによって制作されました。アーティストと子どもたちが共創したエネルギー溢れる作品が、うめきた広場を明るく照らします。

子どもたちにアートの楽しさ・表現することの楽しさを感じてもらう取り組みとしてお子様向けのワークショップは今回で2回目の開催となりますが、グランフロント大阪では、子どもたちの夢を育む取り組みを今後も実施して参ります。

なお、本プロジェクトは今後も定期的な作品の入替を予定しており、中長期的に継続して取り組んで参ります。

### ■ART SCRAMBLE 第5弾 概要

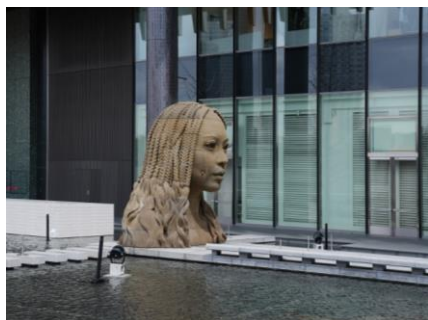
#### 【オブジェ作品】

#### 【うめきた広場大階段アートプロジェクト】

展 示 日 程： 2023年3月28日（火）～2024年3月初旬  
展 示 場 所： 南館せせらぎテラス  
展示アーティスト： R E M A  
キュレーター： ヤノベケンジ（現代アーティスト、京都芸術大学教授）

2023年3月28日（火）～2023年6月下旬  
うめきた広場大階段  
MASAGON  
Mon Koutaro Ooyama（アーティスト）

主 催 者： 一般社団法人グランフロント大阪TMO  
加江外・ディレクター： 椿 昇（コンテンポラリー・アーティスト、京都芸術大学教授）  
特 設 サイト： <https://www.grandfront-osaka.jp/artscramble>



## ■ 【作品①】オブジェ作品



アーティスト：R E M A プロフィール

2021 京都芸術大学 修士課程美術工芸領域映像メディア分野修了

2023 -「異物へ / 土色豚 選抜展その1 Into the Foreign Matter」(日本橋アナーキー文化センター・東京)

2022 -「写真は変成する2 BLeeDinG eDgE on PoST/pHotOgRapHy」

(Garelle Aube・京都)キュレーター／多和田有希氏・後藤繁雄氏

2021 -「彼方はいつもさまよっている」(黄檗宗総本山萬福寺・京都)

2021 -「Down」(銀座SIX鳥屋書店・東京)

2021 - KUA ANNUAL 2021「irregular reports : いびつな報告群と希望の兆し」

(東京都美術館・東京)キュレーター／服部浩之氏

華美で過剰なセルフイメージから社会のロールやジェンダーを考察する作品群を、様々なメディアを横断して作品を生み出してきた。同時に、そのイメージは「女性性と影」—そしてそれらは予感と夢想が原動力となって—抽象化され、線によるドローイングと焼き付けるという行為によって展開されている。様々なマテリアルへと施されてゆくセルフイメージは、まるで元からそこにあった印のように現れ、見る者を原始的な異物の魅惑世界へと誘う。

展示作品名：「FOREIGN MATTER: 'Sand in woman」(異物：'砂の女」)

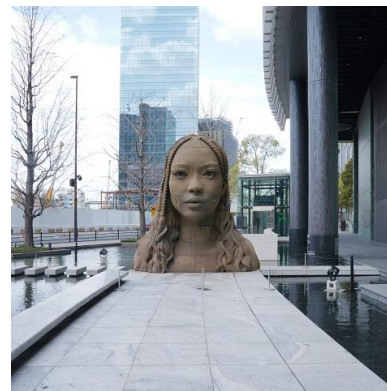
‘Woman is simultaneously a representation, a spectacle per excellence, an image intended to fascinate, to attract the gaze, while still an enigma, the unrepresentable, that which a priori eludes the gaze. She is all surface, lacking any depth, and the unfathomable abyss.’

\* Slavoj Žižek. The Indivisible Remainder: An Essay on Schelling and Related Matters, Femininity as masqueradeより

本作品はタイトルにも記されている通り、粒子径1mm 以下の砂の集合によって作られています。固体でありながら流体でもある砂が、‘凝固され—掘り出され—積み上げられる’ことで、眼前の彫刻として立ち現れます。

流動的なものを凝固させる。凝固した物体は固体と言えるでしょうか。いや、本質的にまだ流体のままなのでしょう。その上で、変質し固定されたイメージのなかに見える流動的なコアこそ本質だと、そう考えている人もいるのではないのでしょうか。

しかし、自分を誇示したいわけではない私が自分のイメージを、膨大な工程をかけて作りながら思うのです。表象からその中身へ、中身から再び表象を構築した意思を彷徨う中で、砂でつくられた表象は装いや女性のフォルムを越えた‘根源的な私’なのかもしれない。



本作品は、立体造形物制作会社の FES 株式会社が 2022 年 6 月に導入した casting として製造された砂の 3D プリンターを使用し制作されました。砂の 3D プリンターで出来上がった砂の製品は粒の集合体のため多孔質で、そこには砂でありながら透明感とも言えるような一種独特の風合いや特別な魅力が宿っています。金属の製品を形作るための縁の下の方だけの価値では非常にもったいないことだと考え、砂で出来た造形品の製作にチャレンジしました。このような取り組みは日本ではもちろん、世界でも類を見ない未だどこにも取り組まれていない手法です。



<https://fes.kyoto.jp/>

FES フェス 株式会社



ART SCRAMBLE  
GRAND FRONT OSAKA



ULTRA FACTORY

本作品は京都芸術大学の共通造形工房ウルトラファクトリーが主催するプロジェクト型実践演習「ウルトラプロジェクト」とコラボレーションして制作しています。

京都芸術大学では、さまざまな造形加工整備や機材を有する制作支援工房「ウルトラファクトリー」にて、第一線で活躍するアーティストやクリエイターが学生とともに活動する実践型授業「ウルトラプロジェクト」を展開しています。世界の第一線で活躍するアーティストの社会実装の現場に学生が関わることで、技術の習得だけでなく、さまざまなノウハウや経験を得ることを目的にしたものです。



## ■【作品②】うめきた広場大階段アートプロジェクト

まちびらき 10 周年のタイミングにあわせて、プロジェクト初となる「うめきた広場大階段」への作品展示を実施。

北館 1 階ナレッジプラザでアーティスト：MASAGON が 4 日間かけて公開制作。制作期間のうち 3 月 18 日（土）に実施したワークショップに参加した 38 名の子どもたちもアーティストと共に力いっぱいペイントを施し、エネルギー溢れる作品が完成しました。アーティストと子どもたちが共創した彩り豊かなグラフィックが、「10」の文字と共に大階段一面に浮かび上がります。

画材協力：ターナー色彩株式会社 (<https://www.turner.co.jp/>)



アーティスト：MASAGON プロフィール

大阪在住のアーティスト。

日々の生活、都市空間、自然界の中でキャッチした様々なカタチと色の記憶を、あらゆる材用や手法を駆使してストリートをベースに制作する。

CD ジャケットのアートワークをはじめ、雑誌、web、広告媒体等でも活躍中。

<http://masagon.net/>

展示作品名：「Hello again.」

ここ数年、口角の角度を想像で過ごした。

その想像も実際に見て感じれる様になった今、

再び人々が行き交い、交差した所に円(縁)が生まれる。

桜色の顔に色とりどりの頭が、子供達と共に制作する事により新たなカタチへと。

これは彼なのか？彼女なのか？

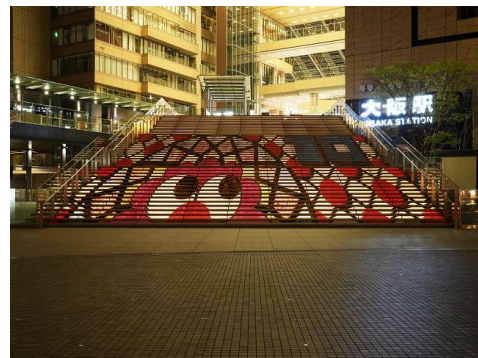
それぞれで想像し感じて下さい。

歴史的なパンデミックで皆の口も見えなかったが、

陽が世界を照らし出すように、

これからはみんなの笑顔と共に口角の上がった口も光り輝くだろう。

もう一度新たに！こんにちは！



### <キッズワークショップ概要>

日程：3月18日（土）

時間：12:00～

※1回30分の交代制で5回実施

場所：グランフロント大阪 北館1Fナレッジプラザ

募集：当日先着順





## ■ プロジェクト・ディレクターからのメッセージ

都市というスタジアムに出現するアートの資質とは何だろう。パブリックアートに変わる言葉を生み出すためにはそれ相応の覚悟と資金が必要となる。WBC があれほど盛り上がった最大の要因は自己都合で辞退していたトップスターが集結した事に尽きる。ベースボールという夢を追う少年 SHOHEI OHTANI がベースボールを救った！さあアートを救い出すスターをみんなで育てよう。アートスクランブルの挑戦に OSAKA が応える時だ。



### 樫 昇（コンテンポラリー・アーティスト、京都芸術大学教授）

1989 年全米を巡回したアゲインスト・ネチャー展、1993 年のベネチア・ビエンナーレに出品。2001 年の横浜トリエンナーレでは、巨大なバツのバルーン《インセクト・ワールドー飛蝗（バツ）》を発表。2003 年水戸芸術館。2009 年京都国立近代美術館。2012 年霧島アートの森（鹿児島）で個展。2019 年「パレルゴン」1980 年代、90 年代の日本の美術・Blum&Poe、LA・USA。2013 年瀬戸内芸術祭「罎+坂手プロジェクト」、2016 年小豆島未来プロジェクト、青森トリエンナーレ 2017、ARTISTS' FAIR KYOTO などでディレクターを務める。芸術経営に関する講演や対談多数。

<https://www.metapolice.net/>

## ■ キュレーターからのメッセージ

自身のポートレートモチーフに様々なメディアを横断して作品を生み出してきた REMA。今作では砂の粒子が凝結した彫刻造形に挑んでいる。粒径 1 ミリ以下の微粒子が自在に変化し巨大像へと凝固される様は圧巻である。都市の中に突如現れる巨像を前に、立ち止まり凝視せざるを得ない市民は現実と虚構のはざまに揺さぶられる目撃者となるだろう。



### ヤノベケンジ（現代美術家、京都芸術大学教授）

1990 年初頭より、「現代社会におけるサヴァイヴァル」をテーマに実機能のある機械彫刻を制作。ユーモラスな形態に社会的メッセージを込めた作品群は国内外から評価が高い。2005 年、全長 7.2m の《ジャイアント・トラヤン》を制作。2008 年以降、京都芸術大学ウルトラファクトリーで巨大彫刻の集団制作体制を確立。2011 年、東日本大震災後、希望のモニュメント《サン・チャイルド》を制作し、国内外で巡回。3 体のうち 1 体が茨木市（大阪）で恒久設置される。2017 年、旅をして福を運ぶ、旅の守り神《SHIP'S CAT》シリーズを制作開始。2021 年、最新作《SHIP'S CAT（Muse）》が 2022 年に開館した大阪中之島美術館に恒久設置され、注目を浴びている。

<http://www.yanobe.com>

グランフロント大阪が「まちびらき」して、はや 10 年も経つという。非常におめでたい事でございます。今回は共創というテーマに沿って、アーティスト MASAGON と子供たちとのコラボレーション作品を大階段に設置し、駅を行き交う人々の足元を彩る展示となりました。激動の時代ですから、ずっこけないように夜の階段をアートでライトアップしております。なんて。ともあれ「まちびらき」が示すビジョンが、これまでに大阪の街で育まれてきたストリートアートを再認識する機会を創出できたらとても素敵ですね。今後の 10 年に更なる期待を膨らませております。



### Mon Koutaro Ooyama（アーティスト）

モン コウタロウ オオヤマ（本名：大山康太郎／1979 年生）は、日本のストリートアーティスト。京都市立芸術大学美術学部卒。2001 年、ライブペイントデュオ「DOPPEL」を結成し、ライブペイントシーンの黎明期からそのスタイルを確立してきた。2014 年、取り壊し予定のビルを利用したアートプロジェクト「#BCTION」を企画・監修する。壁画・ライブペイント・インスタレーション・キャンバス制作や、アートプロジェクトの企画・監修・演出などで活動している。

Instagram : <https://www.instagram.com/mondotooo/>

## ■ プロジェクトロゴ・プロジェクトステートメント



アートでつながる“まち”。

その日の天気、訪れた時間、気分で、

見え方も感じ方も変わる。

日常に溶け込んだアートが面白いのは、

同じ作品でも、見るたびに新しい発見があること。

グランフロント大阪「ART SCRAMBLE」。

いつもと変わらない日常が、いつも新しい日常になる。

アートとあなたは、ここで出会いつながる。

## ■ 展示会場MAP



## ■ 過去展示作品

【第1弾】 期間：2021年3月29日～2021年9月2日（AGARUMANSは2022年3月1日まで）



米村 優人(よねむら ゆうと)

展示作品名：AGARUMANS (Best Friend)

作品説明：「agarma(アガルマ)」はギリシャ語で「彫像」、そして「AGARUMAN」とは「人体彫刻」を意味します。本作は、自身の地元でもある大阪で展示するにあたって、大勢が行き交い、賑わっている人々から着想した3体からなる群像彫刻を制作しました。大阪の街ではしゃぐ3体の彫刻が、新型コロナウイルスが過ぎ去った明るい活気のある大阪の復興への願いが込められています。「Dear My Friend」。

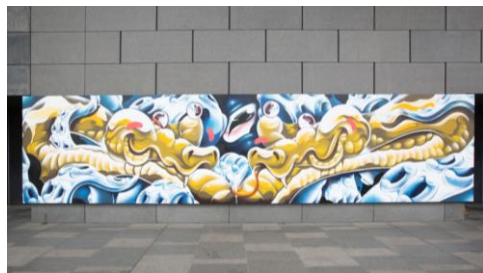
※現在、「滋賀農業公園ブルーメの丘」に展示中



Mon Koutaro Ooyama (モン コウタロウ オオヤマ)

展示作品名：ツナガリ

作品説明：コロナの猛威によって、あらためて私たちの経済圏は大自然の中にあった事を強く思い知らされました。局地的に深刻な被害をもたらす地震や津波、台風や火事よりも広範囲に、ウィルスは影響を与えます。飛行機などの交通網が世界を覆う快適さに伴って、ウィルスはあらゆる都市に蔓延できる可能性を手に入れたのでしょう。自然の生態系を記号化したこのウォールアートは、動植物が自然環境と重なり合って、一体となって、強かに生き抜く姿を示しています。微生物やウィルスを内包しながら、あらゆる生き物たちが関係し合った全体から、私たちが学ぶことはとても沢山あります。都市部にあっても、本当は自然の中にある私たちの生活が、こうした時代に合わせて変化し、修正し、より良い世界に繋がっていきますように。

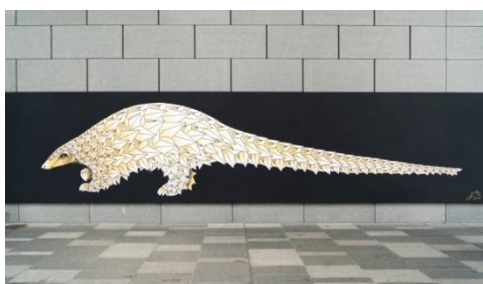


KAC (ケイシ)

展示作品名：多幸

作品説明：擬態をし、どんな環境にも順応し生き抜く“タコ”。脱皮をし、古い自分から新しく生まれ変わる“ヘビ”。コロナに災害、この目紛しい世界情勢の中、順応し、進化し生きていくという気持ちを表現しました。

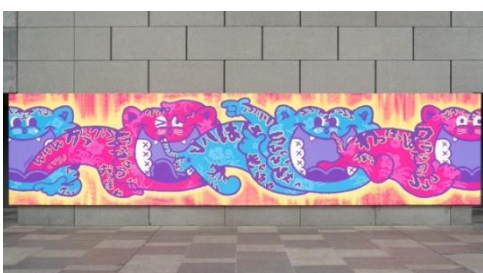
【第2弾】 期間：2021年9月17日～2022年3月10日



BAKIBAKI (バキバキ)

展示作品名：PANGOMIC

作者メッセージ：2020年から1年半に及ぶ人類の自粛生活の影響で、海や山々は美しさを取り戻したと言われています。地球史を俯瞰してみると我々は今、きつと未来の生存活動の為に過去のツケを清算しているのではないのでしょうか。モチーフにした“センザンコウ”は世界一密猟されている絶滅危惧種の哺乳類で、COVID-19の媒介生物と有力視されています。BAKI柄を介してその神々しい姿と向き合うことで、自然への畏怖の念を鑑賞者と共に回顧したい。タイトルの“PANGOMIC”とはセンザンコウの英名(PANGOLIN)とパンデミック(PANDEMIC)の造語です。



MIZPAM (ミズパム)

展示作品名：loooooool infection

作者メッセージ：大きな口から口へ、愉快と笑いが感染していく様を表現しました。ウィルスと共に情報通信メディアを通して、恐怖や怒りまでもが蔓延している世界が日常となっており、これからもウィルスとは長い付き合いになるでしょう。作品の前を通る人々の日常に、わずかも活力を生みきっかけになってもらえたら幸いです。



【第3弾】 期間：2022年3月25日～2022年9月4日（hiwadrome typeΔは来年3月初旬まで展示）

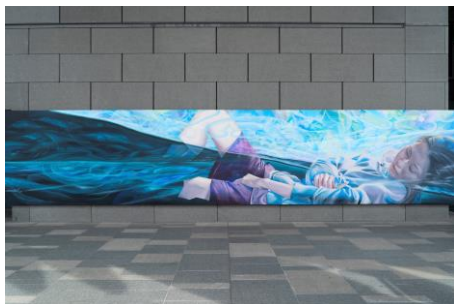


### 檜皮 一彦（ヒワ カズヒコ）

展示作品名：hiwadrome typeΔ

作品説明：自身も使用する車イスを用いた《hiwadrome》シリーズの一形態。より抽象度が高まったtypeΔは今作が初登場である。

制作協力：川村義肢株式会社、株式会社GAYA PRODUCTS



### WHOLE9（ホールナイン）

展示作品名：Mobula

作品説明：メキシコ・ロスカボスの海面をモブラ(イトマキエイ)が大群で跳ね、海と空の両方を飛びように泳ぐ映像を観ました。海と陸の境界はそれぞれの世界で生きる生き物としての分水嶺であり、生と死がスイッチする境界線です。映像ではそのボーダーを彼らがスイスイとたやすく越境しているようで、今の時勢もあってか新鮮に映り、今回の壁画の着想になりました。境界線のアチラもコチラもどこ吹く風、寝仏のように昼寝に堕ちる女性をモチーフに、リラックスして構える大切さを描きとめようと描いた作品です。



### KENTA SENEKT（ケンタ セネクト）

展示作品名：Tiny desk

作品説明：壁画制作や写真を撮ったりしていると街の中にある壁や景色を意識的に見るようになります。日常に溶け込みすぎて気付かなかった部分を発見できる事があり、そういった発見は、普通が少しスペシャルに感じる瞬間でもあるからです。様々な制限がある事が普通になっている今、日常に潜む景色の見方や、切り取り方、またそれに一手間加えてみると同じ景色も違ったものに見える楽しさがあるのではないのでしょうか？そういった着想から今回はグランフロント大阪にて撮影した写真を軸に制作いたしました。

【第4弾】 期間：2022年10月5日～2022年12月25日

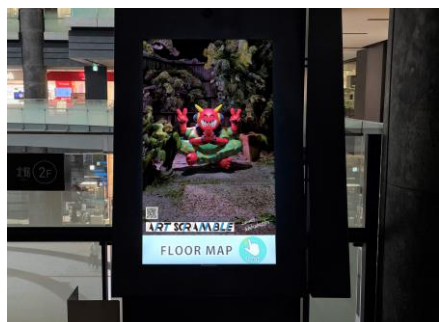


### Mon Koutaro Ooyamaはじめ23名

Bukuro, Chula, Enter, Jaako, Keino, Konirow, Masagon, Mizpam, Moya, Naoki, Ryoji, Ryoya, Shun, Simo, Sota, Takuji, Tim Kojima, 10ric0, うきち, Yankeecong, Youbob, Yuhei Takahata （※アルファベット順）

### うめぐるARTバス with #BCTION Freewall

作品説明：うめきた広場で、総勢23名のアーティストが梅田エリア巡回バス「うめぐるバス」の車体にライブペイントを実施。また、ワークショップに参加した50名の子どもたちもアーティストと共に力いっぱい「うめぐるバス」にペイントを施し、エネルギー溢れる『うめぐるARTバス』が完成しました。23名のアーティストと50名の子どもたちが共創した『うめぐるARTバス』が梅田のまち中を駆け抜けました。



### たかくらかずき（Kazuki Takakura）

展示作品名：BIG ONI KANNON MINI

作品説明：デジタルデータの世界では大きさが定義されておらず、物質同士の表面も反発し合わない。大きさは『可変』であり、それは巨大ヒーローが大きくなる時のように無限な大きさ、小ささを行き来することができる。オブジェクト同士は接触しても反発せず、全く同じ位置に存在することができる。これらのあり方は日本における『妖怪』の在り方に似ている。